

熊本大学大学院法曹養成研究科
平成25年度第2期募集 法律科目試験問題

刑 法

平成24年10月28日(日) 10:00~12:00

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
2. 問題用紙は1枚、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚です。
3. 解答用紙には、熊本大学大学院法曹養成研究科の受験番号のみを記入し、氏名は記入しないで下さい。
4. 解答は横書きにして下さい。解答用紙の追加・交換はしません。
5. 解答にはボールペンまたは鉛筆を使用して下さい。
6. 問題の内容に関する質問には応じません。
7. 貸与した六法に書き込みをしてはいけません。
8. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰って下さい。

【問題】以下の事例を読んで、問いに答えなさい。(配点：40点)

Xはとある有名企業に勤め始めたばかりの新人会社員である。ある日、Xは初めて一人で残業することになった。夜の会社は不気味で、Xは漠然とした不安に苛まれていた。

Xがようやく残業を終えたころ、会社のドアが開いて閉じる音がした。Xがそのドアに向かってみると、見知らぬ男Aが社内を見回していた。Xは「泥棒に違いない」と考え、近くのデスクに置いてあった棒状のものを手にとった。その際Xはその棒状のものの異様な重さに気がついたが、それが何であるかをよく確認しなかった。なぜならXは興奮していたし、その棒状のものを普段仕事でよく目にする段ボール製のただの棒だと思いこんでいたからである。Xは物音をたてないようにAに近寄り、背後からAの後頭部を手にした棒状のもので複数回殴打した。やがてAがその場に崩れ落ちたので、Xは安心して手元の棒状のものを見たところ、実はそれは手斧であった。Aは手斧の峰や刃で頭部を殴打され、死亡していた。

更によく観察してみると、Aの腕には警備会社の腕章がついていた。実はXが残業の届けを出していなかったため、明かりがついていることを不審に思った当該建造物の警備員Aが見回りに来ていたのである。

無実のAを殺してしまったことにあわてたXは、すぐに大学時代の親友Yを呼び出した。Xは会社に来たYに「警備員を殺してしまった。外部から入った物取りの犯行に見せかけたいから、手伝ってほしい」と依頼した。Yはその依頼を引き受け、Xと共に物取りの犯行に見えるよう、会社のデスクの引き出しをすべて開けて回った。

以上の事実に基づいて、X及びYの罪責について述べなさい。ただし、特別法について言及する必要はないものとする。

以上